

仕事と介護の両立支援事業

27年度要求額 53,727千円(雇用勘定)

26年度予算額 67,277千円(雇用勘定)

現 状

- ◇働き盛り世代の家族介護者が今後5年で急増
団塊世代が70歳代に突入し、要介護状態になる可能性が高まる。
- ◇代替要員の補充確保が困難
家族介護をする世代は企業の中核を担う40・50代であり、離職による補充が困難である。
- ◇介護の突発性と多様性への対応が困難
介護は育児とは異なり、突発的に発生し、期間も不明確である。

課 題

- <企業>
 - ◆優秀人材の離職や介護者急増による労務管理への対応困難
 - ◆対策の必要性はわかるが、具体的な取組がわからない
- <労働者>
 - ◆両立制度への知識不足や再就職に対して安易な気持ち
 - ◆周囲の理解がなく、制度を利用しにくい職場風土にいる

第2回認知症高齢者等にやさしい地域
づくりに係る関係省庁連絡会議
平成26年9月25日

資料 1-3

27年度(3年目)

【企業向け】

- ①26年度に見直した職場環境モデルの普及
集合研修・コンサルティングの実施 *20か所×3回×3時間×20人
- ②業種別使用者会議の開催
仕事と介護の両立支援に関する取組が進んでいる企業トップ、人事労務担当幹部、学識経験者で構成される会議を開催し、仕事と介護の両立支援にかかる課題等について議論し、その結果を施策の充実に生かす。
- ③職場環境モデルの充実
業種ごとに企業の両立支援取組事例を収集し、取組内容(支援ニーズの把握、両立支援制度の見直し、介護に直面する前の従業員への支援、介護に直面した従業員への支援等)別にパターン化して複数提示するなどモデルの充実を図る。

【労働者向け】

- ④介護休業、短時間勤務、介護休暇等の制度を活用して継続就業している労働者の事例収集・周知

<シンボルマーク>
トモニン



【広く一般向け】

- ⑤仕事と介護の両立に向けた情報を提供
・シンポジウムの開催、シンボルマークの周知

25年度(1年目)

【企業向け】

- ①介護離職を予防するための職場環境モデルを作成

【企業向け】

- ②仕事と介護の両立支援研修の開催

【労働者向け】

- ③仕事と介護の両立事例集を作成

【広く一般向け】

- ④仕事と介護の両立に向けた情報を提供(シンポジウムの開催)

26年度(2年目)

【企業向け】

- ①職場環境モデル導入実証実験の実施(100社、報奨金30万円)
企業及び労働者の課題等を踏まえて職場環境モデルの見直しについて検討

【広く一般向け】

- ②仕事と介護の両立に向けた情報を提供(シンポジウムの開催)

等

企業及び労働者の課題を踏まえた職場環境モデルを普及し、
仕事と介護が両立できる職場環境の整備を促進